

ワークショップの概要

ワークショップの位置付け

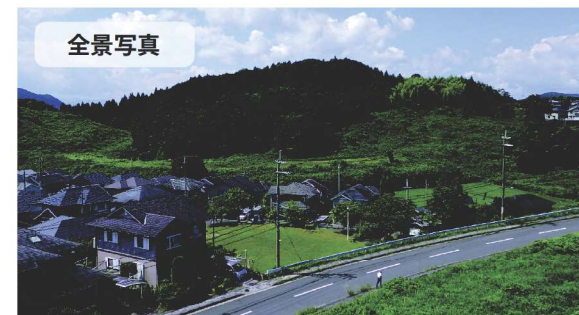
榛原健康増進エリアは、平成12年（2000）10月に保健福祉医療ゾーン用地として、榛原町（当時）が取得しました。その後、何度か整備の話が浮上しましたが、様々な事情により実現に至りませんでした。

近鉄榛原駅周辺まちづくり基本構想において健康増進エリアと位置づけており、今回市有地の有効活用の観点から、今後の整備に関する基本構想を策定することとなりました。基本構想策定にあたり、市民の皆様の声を参考にするため今回ワークショップを開催します。

ワークショップの目的

- ・ 榛原健康増進エリアのより良い発展と活性化を図るために、まちの将来像について話し合います。
- ・ 榛原健康増進エリアに求められる機能や空間イメージを議論し、これから策定する整備のコンセプト・基本的な方針について、基本構想の参考にします。
- ・ 多世代の市民や就労、就学者など多様な主体が継続して地域の問題解決やまちづくりに参画するきっかけをつくります。

ワークショップの対象エリア



ワークショップのスケジュール

- 1 10/16 WS : 「20年後のあなたの理想の暮らし方・過ごし方」
- 2 11/26 WS 案 : 「理想の暮らし方・過ごし方を実現するために榛原健康増進エリアに必要な機能」
- 3 1/21 WS 案 : 「理想の暮らし方・過ごし方を実現するため榛原健康増進エリアに必要な施設・活動」

ワークショップの参加者の皆さま

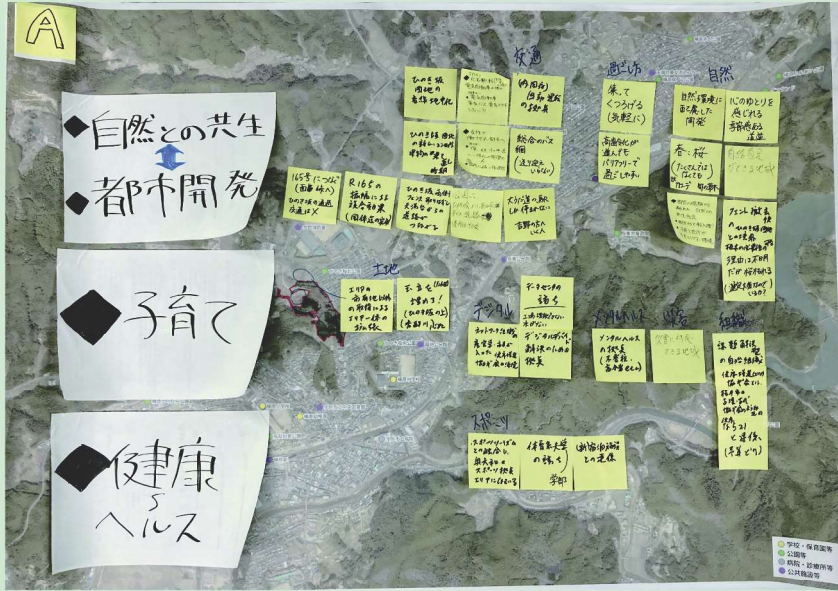
榛原健康増進エリアの近くにお住まいの市民や地域との関わりが深い方、また公募メンバーとして応募いただいた方にワークショップにご参加いただいております。

榛原連合自治会	東榛原まちづくり協議会	榛原地区まちづくり協議会	宇陀市商工会
宇陀市観光協会	宇陀市老人クラブ連合会	宇陀市社会福祉協議会	宇陀市女性の会
榛生昇陽・宇陀高校	公募メンバー		より【合計22名】

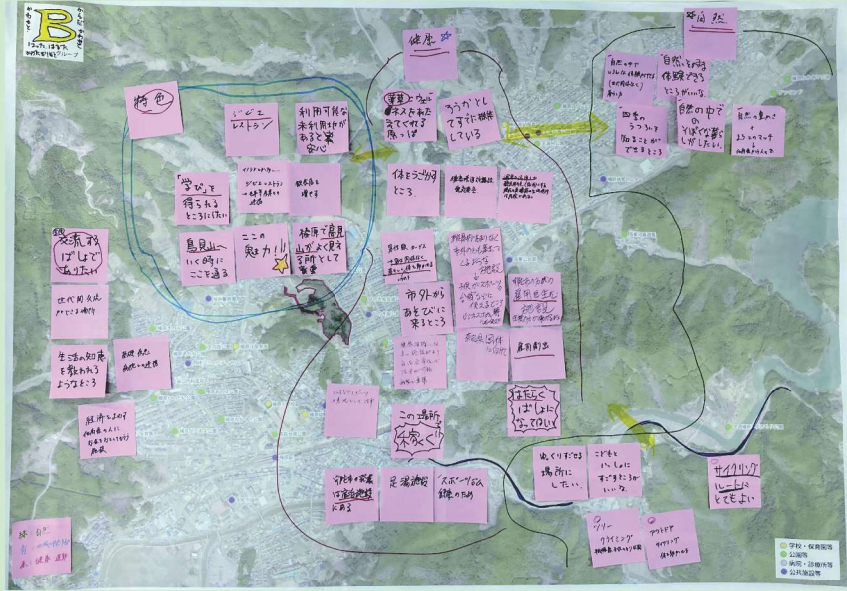
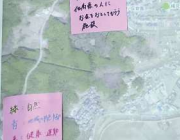
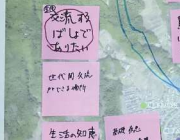
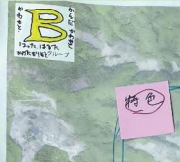
ワークショップの手順

- STEP 1 自己紹介 → STEP 2 書き込みタイム → STEP 3 付箋紙を貼りながら、意見交換 → STEP 4 まとめ方の検討

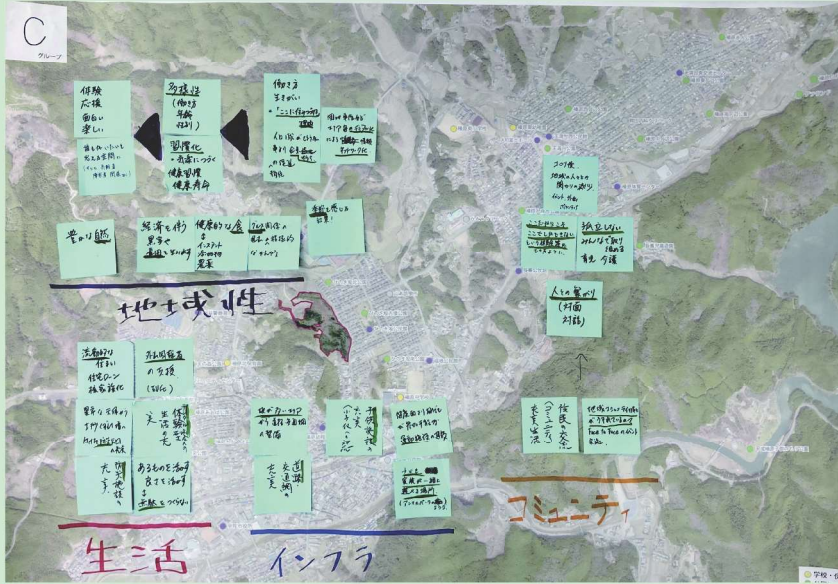
A グループ



B グループ



C グループ



D グループ





近畿大学 久隆浩教授

○まちづくりの変換期

世界中 → 大きなお金で大きなものをつくる

大きな魅力
小さなことを積み重ねていく
※プレイスメイキング

○プレイスメイキング ①
=場所づくり

みんなで力を出しあって
楽しい場所にしていく!!

○自発的なまちづくり

「カエデの郷ひろら」
旧寺太小学校 植物園 カフェ お土産屋

地元の人が運営

自分たちで仕事をつくる
宇陀市内でお金が回る

宇陀市にも良い事例があります!!

○北海道・美幌町の事例

高齢者コンビニ「ば・じ・る」

空き店舗を活用

おばあちゃん おいちゃん るんるん

みんなが空間を使うとどんなことができるのか実験してみた

置2置 歩行者天国

実験をして使い方を確認

道の駅 「京都府南山城村」

道の馬車 + マリオットホテル

お金はアメリカに行ってしまう

もったいな!!... 地元でお金が回るように

○事例紹介

「島根県・大森町」

足の便

石見銀山

観光客のバス

住民の足の便にも

ウィンウィンの関係

しかし、人が集まり過ぎると「観光公害」が起こることも

内容 ↓ 規模

適性規模を考える必要がある

○土地柄が見えてくる

宇陀市

松山地区が「日本のお薬屋のルーツの1つ」

薬草 (薬屋)

水が集まっている

宇太水分神社

人が集まってくる

榛原は伊勢街道と初瀬街道の宿場町

○宇陀市全体で考える

榛原 大字 室生 甘免田野

宇陀市全体で使えるいいもの・空間

空間をいいものにする → 4町村の気持ちを1つに

○キーワード「健幸」・「つなぐ」

健康 ⇒ 「健幸」・「つなぐ」

健康に幸せに過ごせる そういう拠点・空間

4町村をつなぐ

世代間をつなぐ

宇陀高校と施設の連携